

## [参考事項]

成果情報名：秋田県に適したラナンキュラス栽培方法の確立

－球根の吸水処理方法及び期間が生育及び開花期に及ぼす影響－

研究機関名 農業試験場 野菜・花き部 花き担当

担当者 横井直人・間藤正美・他1名

## [要約]

ラナンキュラス球根の吸水処理は、水中に浸漬、又はかん水した育苗培地中の水分で行うが、長時間の浸漬処理は生育障害の原因となる恐れがあり、育苗培地中処理では、冷蔵温度5℃の場合、吸水期間を5日とすることで冷蔵効果が明確になる。

## [キーワード]

ラナンキュラス・吸水処理・冷蔵処理

## [普及対象範囲]

県内ラナンキュラス生産者

## [ねらい]

ラナンキュラスは、冬期生産が可能な品目として注目されている。乾燥保存された球根を吸水により活性化し、球根冷蔵により生育・開花を促進させることが必須技術であるが、本県に適した栽培技術が十分に検討されておらず、普及上の課題となっている。品種数が多く、生育特性にも違いがあることから、本県の気象条件及び品種特性に適した栽培方法を確立する。

## [成果の内容及び特徴]

- 1 「サントロペ」の場合、球根を育苗培地に埋めてかん水し、吸水期間を5日として冷蔵した区では生育及び開花促進効果が現れているが、水中への浸漬処理では開花促進効果が低く、一晚浸漬処理した区では15分間だけ浸漬処理した区よりも生育及び開花が大きく遅れたことから、長時間の浸漬処理は生育に障害を引き起こす可能性がある(図1)。
- 2 冷蔵室内の育苗培地中で吸水させる処理方法では、早生の「シュノンソー」は、吸水期間1日で開花促進効果が見え始め、5日で明確になり、晩生の中でも冷蔵効果の高い品種の「グランベル」は、吸水期間5日で開花促進効果が見え始めることから(図2)、吸水期間を5日未満とした場合には冷蔵不足になることが考えられる。

## [成果の活用上の留意点]

- 1 本試験結果は、農業試験場のガラス温室で栽培を行った限られた品種によるものであり、冷蔵処理は、保有する設備及び温度環境によって結果が異なることが考えられる。
- 2 冷蔵施設内の温度は、設定表示通りにならない場合もあるため、温度計等で実温を確認することが肝要である。
- 3 本試験は、種苗会社から購入したメリクロン育成球根を使用しているため、自家養成球根とは反応が異なることが考えられる。

[具体的なデータ等]

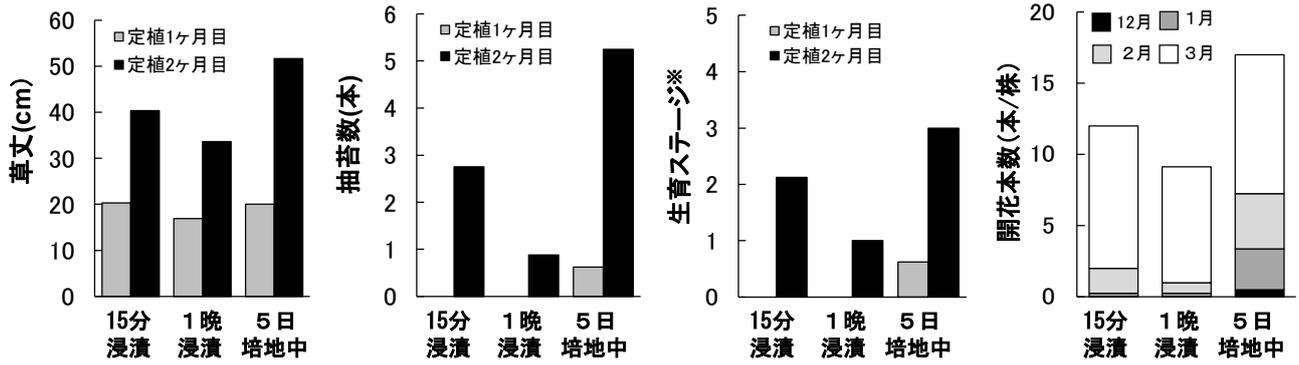


図1 球根の吸水方法が生育及び開花期に及ぼす影響(2018)

品種：サントロペ(早生)

生育調査は、各試験区の定植日から1ヶ月及び2ヶ月後に実施した。各区の処理方法は「試験条件」参照。

※指数の平均値：[0]未抽苔、[1]抽苔始期、[2]節間伸長期、[3]花蕾肥大期、[4]花卉展開始期、[5]開花収穫期

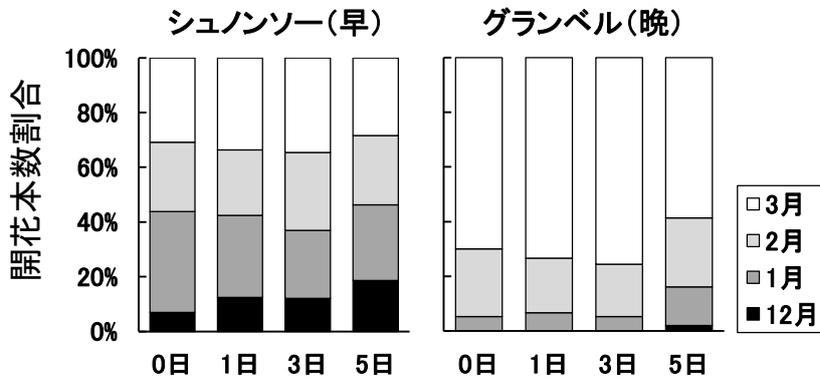


図2 球根の培地中処理での吸水期間が開花期に及ぼす影響(2019)

品種名の括弧内はカタログ上の早晩性を表す。

各区の処理方法は「試験条件」参照。

◎試験条件

【吸水処理】《15分》乾燥球根を常温の水中に15分間浸漬処理、《1晩》設定5℃の冷蔵室内であらかじめ温度を下げた水中に乾燥球根を一晩(約17時間)浸漬処理、《0~5日》乾燥球根を常温の水中に15分間浸漬後、育苗容器中の培地に埋め、十分にかん水し、設定5℃(暗黒下)の冷蔵室に静置して培地中の水分で吸水処理

【冷蔵処理】《15分及び一晩》吸水処理後、育苗容器中のパーライトに埋め、十分にかん水し、冷蔵室に静置して本冷蔵を開始、《0~5日》吸水処理後、冷蔵室にそのまま静置して本冷蔵を開始、冷蔵室設定温度；5℃(暗黒下)、処理期間；サントロペ 2週、シュンソー及びグランベル 4週、

【栽培管理】育苗培地：パーライト(小粒)、馴化：冷蔵処理後5日間程度、採植密度：条間40cm、株間20cm、2条植え、施肥：窒素・リン酸・カリ各1.5kg/a、温度管理：昼温15℃換気、夜温5℃加温、定植日：《2018年》9月27日、《2019年》9月27日

[その他]

研究課題名：ランタンキュラスの品種特性調査

研究期間：平成30年度～令和元年度

予算区分：配当(“秋田の花”リーディングブランド産地育成事業(園芸振興課))

掲載誌等：秋田県花きイノベーション推進協議会「ランタンキュラス栽培指針」(2020)に一部掲載